



KSKQ 萌風香 2023 年度 春号

社会福祉法人萌 広報紙 NO.80 2023.4.20 編集人 社会福祉法人萌 定価 150 円
〒630-0256 奈良県生駒市本町 7-14 ブルームビル2階 ひだまり内 TEL 0743-85-4196

誰もが生き活きと
自分らしく暮らせる
心豊かな社会を
創造します。

ありがとう 今までもこれからも 20年の感謝とこれからの決意を新たに

法人設立20周年式典を2023年2月24日、やまと郡山城ホールの大ホールにて式典、講演、当事者ステージの3部構成で開催しました。

式典では20年を振り返ったオープニング映像に続き、吉川郁子理事長の挨拶(下部参照)から開式。祝辞を奈良県疾病対策課・小島祐課長、大和郡山市・上田清市長、奈良まほろば会・西村恭子会長から頂戴しました。

当法人の利用者代表、菊井俊行さんはご自身の結婚に際して、体調の波や環境の変化のつらさ・しんどさ、それを支援する人への感謝とさらなる期待、今後のご自身の生活などを語られ、会場は感動に包まれました。

また、長年にわたり法人活動にご協力いただいている行政機関などから多くの関係者の方にご参加頂きました。

その後記念講演、当法人利用者などによるステージ(7ページ参照)へと続き、節目となる一日を参加者全員でお祝いすることができました。



地域社会から必要とされる法人へ

吉川郁子(理事長) 挨拶 一部抜粋

萌という法人は、家族、当事者、行政、そしてここにいらしてくださった皆様の支えがあって、今日まで活動を続けられてきた法人でございます。これまでのお力添えに感謝し、これから更に地域社会のために活動する法人として全力で進んでゆく決意をお伝えしたく、2年遅れとはなりましたが、記念式典を開催することにいたしました。

萌の歴史は精神障害者家族会が設立した無認可の小規模作業所の活動から始まります。

当時は「精神障害者」という言葉もまだ世間に知られておらず、障害者が家以外に出かけたり、活動したりする場は殆どありませんでした。「障害を理由に、社会から孤立したり、孤独に陥ったりしないように、そして親亡き後も安心して生きていけるように」といった思いで、家族会のみなさんが、作業所作りに奔走されましたそれを原点にして「社会福祉法人萌」が今、ここにあります。

「障害があっても世間に遠慮したり隠れたりすることなく暮らしていきたい」「親が死んでも精神科病院に入らなくて済む、そんな社会になってほしい」作業所を利用する方たちのそういった願いを実現するために、私たちは法人化を目指すことになりました。法人設立には、資金面を初めとして多くの困難もございましたが、大和郡山市から現在本部のある土地を貸していただけたことをきっかけに、無事法人を設立することができました。

法人設立から20年かけて、生駒・郡山・西和・高田・橿原の5つのエリアを中心に、市町村の相談支援事業の委託を受けて相談支援体制を充実させながら、精神障害者の暮らしや就労を支援する事業所、ホームヘルプステーションやグループホームなど活動拠点を次々と増やしてまいりました。今では、30か所の事業所で700名近々の利用者の方たちとともに活動する法人となりました。

「萌」という名前は「草木が芽吹き勢いよく伸びていくように、奈良県の精神保健福祉も勢いよく発展してほしい」という願いをこめて付けられました。設立から22年、これは単なる通過点だと承知しています。

精神障害のある方たちの暮らしは今なお不自由で、精神保健福祉の体制や社会の仕組みにはまだまだ課題がございます。

「誰もが生き活きと自分らしく暮らせる心豊かな社会を創造します」という萌の理念のもとで、私たちは人々の幸福をどこまでも追求し、地域社会から必要とされる社会福祉法人を目指して、より一層努力をしていく覚悟でございます。

生 駒 エ リ ア

生活支援センターコスモールいこま	0743-73-7000	地域活動支援センターコスモールいこま	0743-73-0900
ひだまり	0743-85-4196	コミュニティスペースはなな	0743-73-1050
グループホーム楽都	0743-73-0141		

待ちに待った 20 周年記念式典

「来年は法人設立 20 周年です。実行委員会で利用者も一緒にイベントを創っていただけたらいいですね」と話しがはじまった頃からコロナ禍に突入。

「今年20周年ですが大勢で集まるのはやめときましょう」と式典が延期になって2年。

昨年12月、式典の実施が決まってからの準備期間は3ヵ月足らず。

利用者の皆さんとともに会議をして進める時間的な余裕がなかったのは残念ですが、20周年記念動画と当日の展示作品、授産製品の販売、当事者ステージを通じて一緒に祝うことができました。

記念動画にも出演したトモハルさん。「僕は弾き語り用のつもりで買ったギター持って、歌いましたが、久しぶりに弾き語りをして合唱するのもいいものだなあと感じました」との感想。

当事者ステージに出演した梶田尚彦さんは「萌よ、本当にありがとうございました」と。いこまコーラス隊はステージのトリ。司会を担当した榎田伸也さんは「盛大に開催できて、めっちゃ嬉しいです」と話します。

次は30周年記念!乞うご期待!!



いこまコーラス隊で「萌の歌」を歌いました♪

当事者の暮らしをどう支えていくか

2021年度に開催した地域移行・地域定着研修会で「地域の支援について知りたい」という意見がありました。

そこで2022年度は、「安心して地域で生活するために」というテーマで地域の支援者をパネリストに迎えシン



いろいろな職場の立場から

ポジウムとひだまり利用者の体験発表を2023年2月7日に生駒市図書館で開催しました。

シンポジウムでは、支援者同士の連携はもちろん、職種は異なっても共通することは「当事者のため」であることの大切さが伝わる内容となりました。

関わっている支援者だけではなく地域のみなさんの協力があってこそ、当事者が安心して地域で暮らすことにつながると考えます。

利用者と共に受講

～認知症サポーター養成講座～

エリア中期計画の一つに「高齢化問題についての取り組み」があります。3月8日、利用者含め18人で「認知症サポーター養成講座」を受講しました。

講師は、生駒市梅寿荘地域包括支援センター認知症地域支援推進員の笹本奏さん他2名です。

寸劇を交えながら、実際に分別を誤り、ゴミを出そうとする認知症の方へどう声かけするか等、具体的にわかりやすく教えてもらいました。

参加した利用者からは「物忘れとの違いがわかった」「認知症の人にはゆっくりと穏やかに接したい」等の感想がありました。

これからも、利用者自身や親が高齢になっても安心して暮らしていけるように、学習を続けていきたいと思います。

郡山エリア

生活支援センターふらっと 0743-54-8112 地域活動支援センターふらっと 0743-54-3977
ふれあい工房 0743-54-6701 彩食キッチンBon 0743-58-5572
グループホームもえぎ館 0743-85-4112

「一人暮らし」はじめませんか？

中期計画の一つ「暮らしを支える」を達成する一環として、一人暮らしのためのパンフレットを作成しました。

一人暮らしをしてみたい！そんな思いを抱いたとき、「何から手をつけたらいいんだろう」「お金はどのくらいかかるのかな」「家事はできるかな」など、期待とともにたくさんの不安が出てきます。

このパンフレットは、どんな生活をしたいかイメージを共有するために職員が一緒に活用することを想定しています。

パンフレットの内容

やりたいことや不安なこと、家事や金銭管理などどんなふうに生活してみたいか書き出すことから始まります。

そして、間取りや賃貸物件の見方、不動産屋ですること。引越し前の荷造りやさまざまな手続き。引越し後のお金のやりくりなど必要な情報が詳細に。

一つずつそれらを確認することで、不安が希望にかわります。

体験発表を通じて

地域活動支援センターふらっと（以下地活ふらっと）の一人暮らしをしている利用者が、2月に開催された大和郡山市主催の障害者家族教室へ講師として登壇しました。

一人暮らしの始め方や、福祉サービスを活用した実際の暮らし、1か月の生活費まで自身の体験や経験を詳細に。参加者からは熱心な質問があり好評でした。

これらのパンフレットや体験発表を通して、地域で自分らしく暮らすための希望を応援していきます。



A4 30頁 力作のイラスト入り

こころのサポーター講座に参加

大和郡山市社会福祉協議会主催の「こころのサポーター講座」に、地活ふらっとから職員と利用者が講師として参加しました。

精神疾患を正しく理解し、地域で寄り



地域への思いが飛び交います

添って支援するボランティアの養成を目指した講座で、障害福祉サービスの概要や地活ふらっとの活動、利用者の体験談などお伝えしました。

共に講師を務めたこころのサポーターズ Bambi（※）メンバーから「活動を通して素敵な地域を作っていきたい」との言葉や、「地域の人々が気軽に立ち寄れる地活ふらっとになってほしい」との利用者の希望。また、受講者からも「実は地域の人々が集まっておしゃべりできる会をしている」とのお話があり、それぞれの地域に対する熱い想いを聞くことができました。

講座を通し、地活ふらっとが地域の中でより身近な存在になってほしい。そして、精神障害について知ってもらうとともに、誰もが暮らしやすいまち作りを地域一丸となって考えていきたいと感じました。

（※）令和2年度こころのサポーター講座の受講生が集まって発足したボランティアグループ。定期的に地活ふらっとの活動に参加しています。

桜 満開 お城まつりに出店

ふれあい工房と彩食キッチンBonが満開の桜の下、大和郡山お城まつりに共同出店しました。

これは市の地域自立支援協議会の就労部会、就労系事業所連絡会の活動の一環で、期間中市内の福祉事業所が輪番で出店しました。

今年からは金魚販売の委託を受け、自慢の焼き菓子と共に販売しました。「さすが郡山。金魚がよく売れた」と参加者。地元の名産と祭りに賑わいを感じられる機会となりました。



水草のほてい草がよく売れます

西 和 エ リ ア

生活支援センターぼると・ベル 0745-43-5541 地域活動支援センターまーぶる 0745-75-6545

らそら 0745-70-1577 グループホーム彩友館 0745-43-9333

ヤングケアラーを知ってますか？

西和7町(※1)は2023年1月26日(木)ヤングケアラーをテーマに、立命館大学産業社会学部現代社会学科斎藤真緒教授を講師に迎え、住民講座を開催しました。



斎藤真緒先生

新型コロナウイルスの影響で、今年は3年ぶりに対面での実施です。前日は大雪となるほどの大寒波の中、住民(民生委員)・社会福祉協議会職員・役場職員など44人が参加。例年より参加者も多く、テーマへの関心度の高さがうかがえます。

斎藤先生からは、奈良県のヤングケアラーの実態を踏まえて、わかりやすくご説明していただきました。ヤングケアラーと対話する時には、「雑談9割、相談1割が大切」との言葉が印象的でした。



斑鳩町中央公民館大ホールいっぱいになりました

セルフヘルプグループが誕生!! 「セルフヘルプグループ虹の会」

2023年4月からセルフヘルプグループ(※2)(以下、SHG)「虹の会」が始動します。今回は、虹の会誕生までのストーリーをご紹介します。

西和7町には精神疾患・精神障害のSHGがありませんでした。そこでまーぶるは、2016年から地域生活支援事業の自発的活動支援事業を活用しSHGに関する学習を重ねてきました。学習会に参加していたあるメンバーが、西和7町にもつくりたいなあとポツリ。この声をきっかけに、2020年6月から準備会を実施していくことになりました。

毎月の準備会では、「昔は福祉の作業所に行くことに抵抗感があったけど、同じ体験をしている人の話は聞きたかった」「もっと早く仲間と繋がりたいかった。情報が欲しかった」と話す場面もありました。そして、どんなグループにしたいか話し合い、他のSHGの見学や、メンバーの誰かが司会をしやすいするために原稿を作成したり、スタッフなしで話し合ったり…。なんと2023年2月には第30回目の準備会となりました。

そして2022年度の学習会では3回シリーズで実施。第1回目は中田智恵海さん(ひょうごセルフヘルプ支援センター代表)、第2回目はAA(アルコールクスアノニマス)メンバーの皆さんから学びを深めました。そして第3回目には、準備会に参加していたメンバーが主となり実際にミーティングを行いました。

着々と準備を整え、2023年4月5日(水)13時30分から王寺町やわらぎ会館内にて本格的に活動を始めます。

虹の会のモットーは「精神疾患・障害があっても自分一人じゃないと感じ、孤立しない場を作ろう」だそうです。ルールを大切に、安心して話ができる場となることを願っています。

立ち上げメンバーからひと言!!

★一人を大切に。

★うまくできないところもあると思いますが“おいでよ手をつなごう”

★今後どうなっていくか分からないですが、新しい事をして自分の経験にもできたらと思います。

問い合わせ先:

地域活動支援センターまーぶる

☎0745-75-6545 (今後、変更になる場合があります)

※1 西和7町:平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町

※2 self-help-group の和訳は「自助グループ」と表現されることが多いですが、「自助」という言葉は「自分で自分を助ける。他人の力を借りない」という意味を持っています。

近年、専門家の中では「セルフヘルプ」ではなく「mutual help(ミューチュアルヘルプ)」=共助・相互扶助、「mutual aid group(ミューチュアルエイドグループ)」という言葉を使うよう変化してきていますが、まだまだ浸透していない状況です。今回は「セルフヘルプグループ」という言葉を使いますが、虹の会では「当事者同士の繋がりと孤立しない場を作る」という事に重きを置いています。

高田エリア

生活支援センターなっつ	0745-23-7214	地域活動支援センターなっつ	0745-23-8105
マインドホーム高田	0745-23-8072	おかわり	0745-23-5625
えいぶる	0745-52-5752	あっとほーむ香芝	0745-44-8023

なごみカフェおかわり10周年 ～はじまりとこれから～

「なごみカフェおかわり」はオープン10周年を迎えました。当日は日頃の感謝を込めて、先着100名様にお箸の記念品を渡しました。事前にポスターで案内していたこともあり、たくさんのお客様が来店しました。

この10年を振り返ってみると、オープン当初はカ

フェ経営について右も左も分からない状態からのスタートでした。当時を知る利用者は「お客様が



なごみカフェおかわりのスタッフたち

全然入ってなくて暇だった」と話します。まずは「店を知ってもらうことから」と駅前でチラシを配り、水曜日には店頭でコロケ販売を始めました。コロケ販売は、今も毎週水曜日に利用者2人で販売しています。10年間一度も休んだことがありません。

毎月ミーティングで振り返りを行い、メニューや接客の仕方などを話し合いながら活動を続けてきました。その成果が実り、商店街の人たちが食べにきてくれるようになり、少しずつ認知度が広がっていきました。

日替わり定食は安くて量が多いのも評判になって、お昼には満席になることもあります。毎日なごみのモーニングを食べに来る常連客からは「いつものお願い」というオーダーが入ります。

お客様もスタッフの顔を覚えてくれていて、利用者が休んでいると「あのお兄ちゃんは?」と言ってもらうこともあります。なごみカフェおかわりでの時間が、お客様の生活の一部になっていると感じます。

次は20周年を迎えられるように、これからも街の中で、街の人たちの「食生活を支える場所」「ほっとできる場所」にしていきたいと考えています。

暮らしやすい町を目指して勉強中!

高田エリアでは利用者の高齢化に伴う課題の解消を目指す高齢ワーキングチーム、精神科病院の長期入院の課題の解消を考える地域移行ワーキングチームの2つのチームが活動しています。

それぞれのチームでエリア内の職員に向けて学習会を開催したので、その様子をお届けします。

高齢者ワーキングチームでは、職員を対象に利用者の高齢化について課題だと感じた事例を募集し分析して、見えてきた課題のうちの一つに障害福祉サービスから介護保険制度への移行に伴う課題がありました。

65歳になると、障害福祉サービスよりも介護保険制度のサービスが優先になります。これまでと変わらない生活をするができるように、職員も介護保険制度をもっと知ることを目的に学習会を実施しました。

当日は大和高田市保健部通期包括ケア推進課の職員を招き、大和高田市の現状



市職員から制度の説明を受けました

や制度について学びました。研修後は「支援で関わる時に顔を覚えてもらっていたので相談しやすくなった」との感想もありました。

地域移行ワグチームでは映画「オキナワへいこう」の上映会を実施しました。精神科病院に10年以上入院している患者の「沖縄に行きたい」という希望を叶えるドキュメンタリーです。

日常の業務に追われる中で、今一度立ち止まり長期入院の課題を意識し、エリア内でも考える時間を作ることを目的に企画されました。

上映後「高田エリアの職員として何ができるか」をテーマに意見交換を実施。映画での「地域が寂しいと1人が寂しい」という言葉から、退院後の生活で寂しさを感じる機会が減るように、長期入院の解消だけでなく街づくりの視点の大切さにも気づくことができました。

退院後も、歳を重ねても、安心して生活が続けられる環境を目指し、今後も活動を続けていきます。

檀 原 エ リ ア

生活支援センターぴあぼへと	0744-24-2020	地域活動支援センターぴあぼへと	0744-24-2070
生活支援センターいろは	0744-32-7753	ひなた舎	0744-32-7745
P i t 八木	0744-21-5666	グループホーム南	0744-24-2050

小学校にて“出前授業”実現

3月7日檀原市立のとある小学校で、「メンタルヘルスに関する出前授業」を行ってきました。

授業を受けたのは6年生47人とその担任教諭2人の計49人です。



熱心に話を聞き入る子どもたち

この学年は2クラス制で、互いの顔が見えるのが当たり前という環境で過ごしてきました。

しかしこの春中学校へ進学すると現在の2クラスから一気に7クラス編成に変わるということです。

新生活のスタートは誰しも期待と不安が入り混じるものですが、急激な環境変化は周りの大人も心配です。

「学校に来づらい子がいても、自分とその子の違いを理解することが難しく、そのつらさはなかなか伝わらない。それを教師から生徒に説明するのはとても難しい。」という担当教諭の葛藤を耳にしたところから今回の出前授業はスタートしました。

もともと檀原エリアでは「教育機関への啓発」を中期計画の一つに掲げてきました。

エリアイベントのボランティアとして、毎年大活躍の近隣県立高校へ“メンタルヘルスに関する出前授業”ができないかと模索していました。

令和4年度からの高校保健体育の教科書に精神疾患の記載が40年ぶりに復活することも後押しになっていましたが、コロナ禍が重なりなかなか思うように進まない状況にありました。

そんな中、この6年生担当教諭との話しが私たちの「教育機関への啓発」という思いと重なる部分があり、何か少しでもお役に立てたらとこちらから提案をし、今回の出前授業が実現しました。

当日は萌からスタッフ6人が参加して、気軽にメンタルヘルスに触れることのできる内容を準備しました。はじめにグループ分けを行い、グループ単位でワークを行いました。自分の今の気持ちとカラダの状態を数直線上で表現したり、調子の良い時の自分について考えてみました。

学校生活にまつわるそれぞれの感覚を共有するワークでは「みんな違うもんやな」という気付きの声もあがりました。

最後には「慣れない環境下での生活変化からつらさを感じ、学校への行きづらさを初めて感じることもあるかもしれない。でもそれぞれが元気に自分らしく中学校生活を笑顔で過ごしてほしい」と、中学校生活に向けたエールと困った時の相談場所についてもお伝えする時間を持つことができました。

生徒の皆さんは真剣なまなざしでとても集中してワークに取り組んでいました。途中、見学に来ていた校長先生や教頭先生から「ペンが止まらないですね」という声がでるほど。

互いの違いを知り、それぞれに今の自分を表情豊かに表現している姿が、とても印象的な授業となりました。



夢中になって、自分の気持ちを書き出し中!!

はじめまして よろしくお願ひします! 2023年度 萌 新任者職員紹介



安部 佐知子(あべ さちこ) 配属先:さくらんぼ

こんにちは。広島県福山市出身で、22年前に大和郡山市にきました。未だに備後弁がでます(笑)
趣味は音楽鑑賞です。クラシックからJ-POPまで色々なジャンルを聴きます。
萌での出会いを大切に、利用者の皆様が地域で安心して暮らせる様、力になれたらと思っています。どうぞよろしくお願いします。



石橋 あゆみ(いしばし あゆみ) 配属先:えいぶる

はじめまして。4月からえいぶるへ配属になりました、萌の一員として加えていただいたこと、とてもうれしく思ってます。

私は大学時代に合気道部に入り活動していました。もともと体を動かすことが好きだったので、今も休みの日には筋トレやストレッチをしています。

未熟者ではありますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



八尾 理華子(やお りかこ) 配属先:Pit八木

はじめまして。実習でお世話になった萌に入職することができ、とてもうれしく思います。利用者さんと共に、萌の基本理念である“誰もが生き活きと自分らしく暮らせる”地域にしていけるように、また自身も成長していけるよう日々努めていきたいと思ひます。

右も左もわからない新社会人ではありますが、何事にもチャレンジし精一杯頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願いします。

【1面から】記念講演&ステージ発表 制度ありきではなく「ないものは創る」

第2部、兵庫県立大学環境人間学部准教授の竹端寛さんから「地域精神保健のあるべき姿と萌への希望」の記念講演では、この20年を振り返り、法人職員へのメッセージが伝えられました。

長期入院が多い日本の精神科医療の問題や地域資源の財源、法制度の脆弱さに先人たちが立ち向かってきた歩み。それらが未だ解消されていない現状。「あることが当たり前ではなく、ないなら創る」その意識を持つことの大切さ。など1時間の講演はあっという間に過ぎました。

また、障害当事者・職員のリカバリーは?「あなたは(生きづらさを感じている)今でも何一つ欠けるところのない人間です」という前提を踏まえ、リカバリーの三段階。①夢を持ち始める ②夢を追い求める ③夢を生きる のうちあなたは何段階目ですか?「しかたない」と諦めてしまった夢や希望はありますか?とやさしく、熱く問われました。

講演後の第3部のステージ発表。当法人の利用者・職員がこの日のために準備してきた13組のパフォーマンスが披露されました。歌、演奏、ダンス、朗読、完全オリジナル…。



「あなたが法人の、精神保健福祉の歴史を創っていく」



会場が一体となってレッツダンス!

会場は拍手と声援、笑顔に包まれます。ダンスには理事長の飛び入り参加もありました。

フィナーレは10周年記念で作られた萌の歌「夢の未来へ」。たくさんの感謝を込めて、これからも法人全体で盛り上げていこうと会を締めくくりました。

さくらんぼ便り

ホームヘルプステーションさくらんぼ
0743-54-0800

ライク通信

なら西和障害者就業・生活支援センターライク
0743-85-7702

より良い支援をめざして

4月1日から、サービス提供責任者が1名増えて総勢5人体制となりました。(7 ページをご覧ください)

サービス提供責任者は、5つあるエリアをそれぞれ担当すると共に、担当以外のエリアでヘルパーとして支援したり、急にヘルパーがお休みになった場合の代行を行っています。

それは、エリアを問わず複数の職員が対応できる状態を作り、感染拡大などの緊急時に支援を継続していくこと。また「さくらんぼとしてどう支援するか」について、対話しながら共通理解を深めていくことにつながります。

利用者の方にとっては、時々違うヘルパーが来ることに、緊張や不安があるかもしれませんが、一緒に考える仲間が増えたと思って頂ければ幸いです。

コロナ禍以降初の対面開催！

障害のある方の就労を支える関係機関が互いに有機的な連携を図ることを目的に、2023年3月8日(水)に西和圏域障害者就労支援連絡協議会を開催しました。

ライクの実績及び障害者雇用代行ビジネスを含めた昨今の情勢報告や、新サービス「就労選択支援」が創設されることを受け、アセスメントについての話題提供をした上で意見交換を実施しました。参加者からは活発な発言や意見交換が行われ、顔の見える関係性づくりの一助となりました。

障害者雇用関連施策は変動し、障害のある方の働き方にも影響が出ることが予想されます。ライクでは各関係機関の強みを活かした連携が図れるように、発信・共有などの取り組みを継続していきます。



★萌風香の購読★

萌風香は年 4 回発行です。皆様のお手元に届いた後、萌のサービス利用者以外の方で「引越して住所が変わった(住所変更)」「次からは送ってもらわなくても結構です(購読中止)」という場合、お手数ですが必ず萌風香編集部ひだまり(0743-85-4196)までご一報くださいますようよろしくお願いします。

▽萌 後援会からのご案内

萌後援会は「社会福祉法人萌」の活動を支援していただける皆様に募集しております。

主な目的は法人事業の支援や寄付を行っています。

会費の納入及び寄付の受付口座は郵便振替 社会福祉法人萌後援会
00920-4-221824

後援会事務局(萌総務部内)
0743-54-0821(大東)

▽ハートフルこおりやま
精神障害者の社会参加をすすめる会

「障がいのあるなしに関わらず、誰もが住みやすい街づくり」をすすめる当会では、会の趣旨に賛同頂き、活動に協力して下さる会員さん・ボランティアさんを大募集しています!!年会費は1口 500 円(2 口からお願いします)です。

連絡先:会事務局 ふらっと内
0743-54-3977(帯田)

▽ひだまりクローバー
生駒精神障がい者後援会

生駒市内で活動する精神疾患精神障害を持つ当事者に対しての「活動支援」と、「市民への啓発」をすすめている市民団体です。発足して28年目を迎えます。

新規会員募集中!
年会費 2000円
連絡先:コミュニティスペースはなな内
0743-73-1050(佐藤)

▽地域家族会の情報

新型コロナウイルスの影響で、各例会の開催が中止・延期など変更されています。詳しくは、下記の各団体・お問い合わせ先にご確認ください。

詳細は まほろば会(NPO 奈良県精神障害者家族会連合会)

TEL:090-9213-2731 FAX:0742-51-5506 <https://nara-mahorobakai.org/>

名称	月例会	時間	場所	問い合わせ先	電話番号
さくら会 (大和郡山市周辺)	第3日曜日	13:30~	三の丸会館	会長関野	0743-54-6375
ひだまり会 (生駒市周辺)	第3土曜日	13:30~	市民活動推進センター らぽーと	会長上村京子	0743-78-0885
西和家族会 (西和7町周辺)	第4土曜日	13:30~	王寺町やわらぎ会館	西村	0745-74-6203
すみれ会 (大和高田市周辺)	第3日曜日	13:30~	大和高田市中央公民館	三島	090-9889-7984
のぞみ会 (橿原市周辺)	第2日曜日	13:30~	県心身障害者 福祉センター	ぴあぼ〜と	0744-24-2020